

(第一回)

2025(令和7)年度入学試験問題

国 語

(試験時間：50分)

《注 意》

- (1) 問題は

一

 ～

三

 まであります。
- (2) 解答はすべて解答用紙に記入してください。
- (3) 受験番号、氏名を忘れずに記入してください。
- (4) 解答に際して、句読点・符号などが含まれる場合には1字分として数えます。

城 西 大 学 附 属

城 西 高 等 学 校

— 1 —
次の文章を読んで、後の問いに答えなさい。

昔と比較したときに誰もが感じるのは、おそらく「便利になった」あるいは「効率的になった」ということでしょう。たしかに、IT（情報技術）の発達によって、昔はできなかったことがいろいろとできるようになりました。既読スルーという言葉が生まれるなど、日々の文化の変化も実感しているはずです。

I、かつてはいちいち図書館に足を運ばなければできなかったような調べ物も、いまはデジタルのケンサクウィンドウにキーワードを入れるだけで済んでしまうことが大半です。①情報は図書館からはじまったと言っても信じられない人もいるかもしれません。スマホがあれば、時刻表や地図を用意しなくてもどこにでも移動できるでしょう。メールやSNSでは、相手が世界中のどこにいてもすぐに連絡を取り合えます。昔よりも「便利」で「効率的」なのは間違いありませんが、②そこに残された社会インフラや、まだ変化していない面には何があるのか。IT化が進む社会の中で、人間はただひたすらその利便性を享受し、それが本質だと思っているだけでいいのでしょうか。いつまでもコンピュータは「ただの道具」なのでしょうか？

私は、コンピュータが人間の社会にもたらす変化は、単に「昔より便利になった」とか「生活が楽になった」という次元のものではないと思っています。それはもつと根本的なレベルで、人間の生き方と考え方に変革をセマる③です。つまり、コンピュータは電気製品ではなく、我々の第二の身体であり、脳であり、そして知的シヨリ④を行うもの、たんぱく質の遺伝子を持たない集合型の隣人です。

《 中 略 》

それがコンピュータと人の作る未来ならば、当然、人間の生き方も変わらなければいけません。とくに若い世代はそうでしょう。いつの時代でも言われることですが、現在の小中学生が社会に出る頃には、現在とはまったく違う世の中が訪れているはず⑤です。現に私が小学生のときと現在の社会態様は、インターネットを含めだいぶ変わりました。しかしながら、③ など、まだ変わっていないものもあります。そしてそれらは聖域ではなく、これから変わっていくのではないかと考えられます。

II、彼らに将来の指針を与える立場にある親の世代は、いまコンピュータやインターネットのもたらす技術的变化や文化的変化によって具体的に何が起るのか、それがどういう意味を持つのかを理解していないのではないのでしょうか。そのため多くの親が、④ 子どもに見当違いの工業社会的な教育を与えているような気がします。

III 親の世代も、自分たちの若い頃と時代が変わっていること自体は認識しているでしょう。

インターネットの発達でグローバル化が進んでいることや、先ほど述べたようIT化によって利便性が高まったことは誰が見てもわかります。ですから、親の世代も自分たちが受けたのと同じ、均質化され出口が約束された教育で良いと考えているわけではありません。

たとえば、英語教育に熱心な親は大勢いるでしょう。「グローバルな社会で生きていくには、英語ぐらいできないと」と考えて、子どもが小さいうちからバイリンガルにするための教育を行っています。それを求めるのは保護者ばかりではありません。学校での英語教育を求める声は財界などにも多いですし、文部科学省も小学校への英語教育の導入を進めています。

しかし、それが本当に将来のキャリアに役立つのでしょうか。

たしかにグローバル化によって外国人とコミュニケーションする機会は増えましたが、コンピュータの翻訳技術もどんどん向上しています。最近では、ちょっとした仕事上のメールのやり取りなら機械翻訳の進歩で事足りるようになりました。音声の翻訳も含めて、その精度はテクノロジーの進歩によって、短期間のうちに上がるでしょう。

英語については後で詳しくお話ししますが、そういう世界で大事なものは英語力ではありません。たとえばコンピュータが翻訳しやすい論理的な言葉遣いが母語でちゃんとできること、つまりそのような母語の論理的言語能力、考えを明確に伝える能力が高いことのほうが、はるかに重要ではないでしょうか。

もちろん、英語の読み書きや英会話ができるに越したことはないでしょう。でも、それは今後の世界を生きていくための最優先課題ではありません。^⑤その前に身につけなければいけない別のスキルのほうが、圧倒的に多いのです。英語はプログラミング言語の一種だと思って、練習して使いこなせるくらいが丁度いい距離感のように私は感じています。

また、子どもにコンピュータ・プログラミングを学ばせる親も増えました。英語教育が社会の「グローバル化」に対する過剰反応だとすれば、こちらは「IT化」を意識しているがゆえの錯覚のようなものです。たぶん、「これからはIT業界に入れば成功できる」という前提で考えているのでしょう。

率直に言って、子どものときから単にプログラミングが書けること自体にはあまり価値はないと個人的には考えています。IT関係の仕事で価値があるのはシステムを作れることです。プログラミングは、自分が論理的に考えたシステムを表現するための手段にすぎません。

ですから、「プログラミングができる」というのは、いわば「算数ができる」ぐらいの話。算数ができれば学校では良い成績が取れるでしょうが、それが何か価値を生むわけではありません。もちろんプログラミングを競うコンテストや、プログラミング言語自体の研究なども行われていることは確かですが、多くの分野にとってプログラミングは道具にすぎず、算数と同じようにツールであり、それ自体が目的化しては意味のないものになってしまっています。

大事なものは、算数を使って何をするかということです。だからそれと同様に、プログラミングができるだけでは意味がない。それよりも重要なものは、やはり自分の考えをロジカルに説明して、システムを作る能力でしょう。

この5年ほど言い続けていることですが、^⑥ システム的ではないある種の現代における人間的な能力を鍛えなければ、どんなに英語を学んでも、プログラミングを学んでも、シンギュラリティやマルチラリティ以降の世界に通用する人間にはなれないでしょう。^⑦ それは、「コンピュータと人間が相互に補完しあってそれ以前の人類を超えていく時代」だからです。お互いにできることを示さねば、どちらかに吸収されてしまうのです。

(落合陽一『働き方5.0 これからの世界をつくる仲間たちへ』)

※1 現に私が： 筆者は一九八七年生まれ。

※2 財界： 経済に影響を与える職業の人たちの社会のこと。

※3 ロジカル： 理にかなった、筋の通った。

※4 シンギュラリティ： 人工知能が人間の知能を上回ること、人間よりも優れた存在になるという考え。

※5 マルチラリティ： シンギュラリティに対し、人間の価値はそれぞれ異なるため一概に人工知能が人間より優れているとはいえないという考え。

問一 部 a e のカタカナを漢字に直し、漢字は読みをひらがなで答えなさい。

問二 空欄 I III にあてはまる語句としてもっともふさわしいものを、次のアエの中からそれぞれ選び、記号で答えなさい。

ア たとえば イ また ウ もちろん エ ところが

問三 部①「情報学は図書館からはじまったと言っても信じられない人もいるかもしれませんが」とあるが、その理由としてもっともふさわしいものを次のアエの中から選び、記号で答えなさい。

ア 今ではインターネット上には情報があふれており、わざわざ図書館に行く必要はなくなったが、昔の世代の人たちはその事実が受け入れられないから。

イ 図書館はただ書物を保管する場所ではなく、様々な情報を利用者に共有するための場所だったが、今ではその役割が認知されにくくなったから。

ウ 昔はインターネットよりも、図書館から情報を収集した方が安全だという認識が一般的だったが、現在はインターネットの情報が確実性が高いから。

エ スマートフォンが普及する前は、すべての情報は図書館の書物からしか得られなかったが、今は書物以外の情報もデジタル化されているから。

問四 ―― 部②「そこ」が指す内容としてもっともふさわしいものを次のア～エの中から選び、記号で答えなさい。

- ア SNSやメールの世界 イ IT化が進む日本
ウ インターネットの中 エ IT化する前の日本

問五 空欄 ③ とあるが、次の i～iiiの言葉についてあてはまるものには「ア」を、あてはまらないものには「イ」を解答欄に記入しなさい。ただし、すべて同じ記号を解答することは認めない。

- i 選挙の原則 ii 支払い方法 iii 働き方

問六 ―― 部④「子どもに見当違いの工業社会的な教育を与えているような気がします」とあるが、本文中に書かれている「工業社会的な教育」の具体例を二つ抜き出して答えなさい。

問七 ―― 部⑤「その前に身につけなければならない別のスキル」とあるが、その具体例が書かれている一文を探し、最初の五字を答えなさい。

問八 ―― 部⑥「システマ的ではないある種の現代における人間的な能力」とあるが、それはどのような能力か。あなたの考える能力を十五字以上二十字以内で、解答欄に合うよう簡潔に答えなさい。

問九 ―― 部⑦「それは、『コンピュータと人間が相互に補完しあってそれ以前の人類を超えていく時代』だからです。お互いにできることを示さねば、どちらかに吸収されてしまうのです」とあるが、次の条件に従って「コンピュータ」ができることと、「人間」ができることを考え、それぞれ具体化して提案しなさい。

条件① 内容は「コンビニエンスストアでのコンピュータ活用について」に関するものとする。

条件② 六十字以上八十字以内で書くこと。

条件③ 「コンピュータは……。人間は……。」の形に従い、二文で書くこと。

二

次の文章を読んで後の問いに答えなさい。

明泉高校に通う「私^A御木元玲^{みきもとれい}」たちは、卒業生を送る会で合唱を披露することになっていた。本文は、本番まであと3日しか残されていない中、クラスメイト達が話し合い、当日の朝を迎える場面である。

「うちのクラスらしい歌にしたいと思うのよ。今の2Bにしか歌えない歌」

「うん」

「そういうの、どうしたら表現できるのかな」

「そうだね。たぶん、私たちらしさを出そうとしなくても、^①私たちが歌えば私たちの歌になつてらんじゃないかと思う」

^A客観的に見ることはできないけれど、私たちの『麗しのマドンナ』は私たちにしか歌えない。合唱コンクールがあり、マラソン大会があり、もう一度発表する機会を得る過程で、私たちらしさは積み上げられていつているはずだ。

「間違ってるかもしれないけど……」

前置きをして話し始めたのは里中さんだ。

「私たちらしさを出そうとして出てくるのは私たちらしさじゃなくて、私たちの中の、人よりも前に出ようとする心なんじゃないかな。そんなのは出てこなくていいと思うんだ」

この人は、美術部でいつも絵を描いている。^{※1}イーゼルと向かい合って、自分の描く絵と自分らしさについて常に考えてきたのだろう。

「じゃあ、どんな歌を目指せばいいんだろう」

「なんかさ、よろこんでもらいたいよね」

コリエがいった。

「へたくそなのに差し出がましいっていうか、^②あつかましいとは思うんだけど、やっぱ聴いてくれる人によろこんでもらいたい」

「うーん、どう？ 自分がよろこぶのを優先していいんじゃない？ 人をよろこばせる前に、まず自分だよ。あたしたちがよろこぶ歌を歌おうよ」

いろんな意見が出る。すごいと思う。どれも間違っていない。

「まあ、あたしたちの歌で人をよろこばせようなんて百年早いよね」

^③「早くないよ、それでいいんじゃない」

そういったのは千夏だった。

「お客さんをよろこばせるのはすごく大事なことだと思うな」

千夏のいう「お客さん」は、合唱を聴いてくれる人たちだけでなく、あのうどん屋にうどんを食べに来る人が重なっているのだらう。うどんを打つ技術を見てほしいんじゃない。だしをどんなふうに取っているかを知ってほしいんじゃない。うどんを食べておいしいと思ってくれるように、お客さんの顔がほころぶように、それをいちばんに考えてつくっている 自負がある。

「だって、みんな、もうよろこんでるでしょ？ 歌ってるとき、楽しいでしょ？」

あちこちでうなずく顔がある。

「楽しくなかったら歌ってないって」

みんなの様子を見て、ひかりが笑顔でまとめる。

「まず、あたしたちが楽しんでるのが前提。で、聴いてくれる人をよろこばせたいって思うのはすごく自然なことだよ。聴いてくれる人がよろこぶと、歌ってるあたしたちもううれしい。」^④それが歌に返ってくる。きっとあの歌はどんどんよくなるよ。明後日、卒業生を送る会で歌うのが最後の機会になるから、会で歌うときの歌がいちばんいいはずだよ。進化し続けてるんだし、聴いてくれる人がたくさんいるんだし」

そうか。閃いたことがあった。

「聴いてくれる相手を決めよう」^⑤

私の言葉に、怪訝^{きげん}そうな声が返った。

「卒業生？ それに浅原^{あさはら}も、在校生も、このクラス以外のみんななんじゃないの？」

「あ、わかった。いちばん聴いてほしい人をそれぞれ思い浮かべるとか？」

うん、と私はうなずいた。

「いい？ 未来の自分を思い浮かべるの。あたしたちの歌を聴いてくれるのは未来の自分だって。今のあたしたちはこんな『麗しのマドンナ』だよって見てもらおう」

《 中 略 》

学校に着くと、たくさんの顔が揃^{そろ}っていた。

「玲、遅い」

「……いつも通りだけど」

「何のんきなこといってるの、発声練習だけでもやって喉を温めておかなきゃいつもの声が出ないでしょ」

真剣な調子でいわれてしまった。ほんとうにその通りだ。

「ほらほら、音楽室。鍵借りてきたから」

短い発声練習の後、ひかりが手を挙げた。

「えーと、みんな、だいじょうぶかな？ いつも通り歌えそう？」

ぐるっとみんなを見渡して、それから自分でひとつうなずいた。

「うん、だいじょうぶだね。いけそうだね。じゃあ、最後に私たちの指揮者からひとこともらおうか。玲、お願いします」

慌てて首を振る。私にアドバイスできることなんて、もうない。

「そう？ いいの？ じゃあ、代わりに誰か、いいたいことある人。——はい、佳子」

小さく手を挙げていた里中さんが恥ずかしそうにこちらを向いた。

「あたしたちの、それぞれの背中を押してくれて、ありがとう」

え、私？ 目を見開いた私にクラスメイトたちの視線が集まる。私ではない。私はずっと自分のことばかり考えていた。

「ううん、背中を押してくれたのは——」

「れい、でしょ」

驚いて声の主を見た。霊？ おじいちゃんのこと？ 史香は、きれいな茶髪を耳に掛けながら、なんでもないことのようにいった。

「れいが自分で、自分の背中を押したんだと思うよ」

自分で、といわれて初めて霊ではなく玲だと気がついた。

「玲って昔の御木元さんと違うもん」

昔の私とどこが変わっただろう。よくはわからない。でも、たくさんのクラスメイトたちの顔が見える。

ひかりの顔。いつもクラスのまんなか立って、どんどん進んでいける人。自分が進むだけでなく、ときどき振り返ってみんなの様子に気を配る。進めないでいる人に、自然に手を差し伸べることができる。

そうだ、千夏。千夏がいてくれたから、私は^⑥この場所にたどりつけた。孤立^{こり}していた私の指揮に、精いっぱいピアノで応えてくれた。

目の前の史香には特別な靈感があるらしいことも、早希がソフトボールのすごい選手だったらしいことも、私は何も知らなかった。きっと、お互いに知らないのだ。知らないままひとつのクラスに入って、知らないまま別れていく。それまでの短い間に、私たちは交わった。ぶつかって、混じりあって、私たちは変わった。

講堂へと向かういくつもの列に合流しながら、しみじみと幸運を噛みしめる。このクラスになれてほんとうによかった。胸に私たちだけのメダルを下げているような、誇らしい気分だった。

今、はっきりとわかる。私が目指しているのは、音大に入ることではない。プロの歌手になることでもない。歌を歌うことでさえない、と思う。歌を歌うのは私のやり方でしかない。目指すのは何かといわれれば、うまく答えることはできないけれど、つまり、よく生きること、なのだと思う。

「そろそろ行くよ」

一年生の劇が終わって、バレエ部がなぜかコントをやっている。短い休憩の後は私たちの出番だ。

(宮下奈都『よろこびの歌』)

※1 イーゼル… キャンバス(絵を描くための布)などを載せて固定するためのもの。

※2 怪訝そう… 訳が分からなくて納得がいかない様子。

※3 浅原… 明泉高校の音楽の先生。

問一 ―― 部A「客観的」・B「自負」の意味としてもつともふさわしいものを、次のア～エの中からそれぞれ選び、記号で答えなさい。

A 客観的… ア 特定の立場にとらわれず、物事を見たり考えたりするさま。

イ 特定の立場に立つことなく、物事を判断し指示するさま。

ウ 特別な立場を自覚して、人々に公平に接しようとするさま。

エ 特別な立場に立つことなく、平等に分け与えようとするさま。

B 自負… ア 自分の経験や知識などに頼らず思い切ってやってみることに。

イ 自分の才能や取り組みなどを他者に教え、共有すること。

ウ 自分の経験や知識などを判断の根拠こんきょとしてとらえること。

エ 自分の才能や取り組みなどに自信や誇りを持つこと。

問二 ―― 部①「私たちが歌えば私たちの歌になってるんじゃないかと思う」とあるが、そのようにいえる理由としてもつともふさわしいものを次のア～エの中から選び、記号で答えなさい。

ア 一年間を通じて同じクラスメイトと時間や行事を過ごすことで、「自分たちのクラスらしさ」が生まれたから。

イ 一年間を通じて「私たちらしいクラス」についてみんなで考え、自分たちのクラスらしさをつくり出せたから。

ウ 「自分たちのクラスらしさ」はクラスの誰もが知っているので、みんなで考えなくても自然と表現できるから。

エ ハーモニ―の豊かさこそが「私たちらしいクラス」を表現する上で重要なので、まずはそのことを考えたいから。

問三 ―― 部②「あつかましい」と同じ意味を持つ次の慣用句の□にあてはまる漢字を答えなさい。
・面の□が厚い

問四 ――部③「早くないよ、それでいいんじゃない」とあるが、合唱について「千夏」がこのように発言した理由としてもっともふさわしいものを、次のア～エの中から選び、記号で答えなさい。

- ア 2Bで何度も練習して上達した過程を事細かく知ってもらいたいから。
イ 2Bらしさより聴いてくれる人たちの思いやることの方が大事だから。
ウ 2Bのみんなが楽しそうに歌っていることを味わってもらいたいから。
エ 2Bの合唱の裏にある強いチームワークを伝えることの方が大事だから。

問五 ――部④「それ」の指す内容を、三十字以上四十文字以内で説明しなさい。

問六 ――部⑤「聴いてくれる相手」とあるが、具体的には誰のことか。本文中から五字程度で抜き出して答えなさい。

問七 ――部⑥「この場所にたどりつけた」とあるが、この言葉に含まれている内容としてふさわしくないものを次のア～エの中から一つ選び、記号で答えなさい。

- ア 「私」が自分の考えを伝え、クラスメイト達と良い形で意思疎通ができるようになったこと。
イ 自分の力でみんなをまとめ上げてきた成果を、発表できる日になったこと。
ウ 昔の自分から変化し、本番に向けて仲間と協力しあえたこと。

エ 「千夏」の精いっぱいピアノが支えとなり、コンクールに向けて練習を続けられたこと。

問八 「ひかり」の説明としてもっともふさわしいものを、次のア～エの中から選び、記号で答えなさい。

- ア クラスメイト達をまとめられないことに自分のふがいなさを感じている。
イ 自分の力でクラスメイト達をまとめ上げたことに自信を感じている。
ウ ピアノの演奏で「私」のことを支えてくれるような安心感をもたらしてくれている。
エ クラスの中心に立って周囲を気づかいまとめるような声がけができる。

問九 本文の内容についての説明としてもっともふさわしいものを次のア～エの中から選び、記号で答えなさい。

- ア 「コリエ」は2Bの合唱で人を十分に喜ばせることができると感じている。
イ 「史香」の靈感は、合唱が上手くいくことを見事的中させるものだった。
ウ 現在の「私」はクラスメイトの教室内での言動をよく見ている。
エ 「千夏」は指揮を精一杯頑張る「私」に対して引け目を感じている。

三

次の文章を読み、後の問いに答えなさい。

【本文】

去、安元三年 四月廿八日かとよ。風はげしく吹きて、静かならざりし夜、^① 戌の時ばかり、都の東南より火出で来て、西北にいたる。はてには朱雀門、大極殿、大学寮、民部省などまで移りて、一夜のうちに塵灰となりにき。火元は樋口富の小路とかや。舞人を宿せる飯屋より出で来たりけるとなん。吹きまよふ風に、とかく移りゆくほどに、扇をひろげたるがごとく、末広になりぬ。遠き家は煙にむせび、近きあたりはひたすら^{ほのお}焰を地に吹きつけたり。空には灰を吹き立てたれば、火の光に映じてあまねく紅なる中に、風にたへず吹き切られたる焰、飛ぶがごとくして、^③ 一二町を越えつつ移りゆく。その中の人、うつし心あらむや。

（『方丈記』^④）

【現代語訳】

去る、安元三年（一一七七年）四月二八日のことであつたか。風が激しく吹き、静まらなかつた夜、^① ころに、都の東南の方から火が出て、西北の方まで広がっていった。しまいには朱雀門、大極殿、大学寮、民部省などにまで火が燃え移り、一夜のうちに灰となつてしまった。火元は樋口富の小路とかいうことだ。舞人を泊めていた飯屋から火が出たという。吹き荒れる風であちこちと燃え移っていくうちに、扇を広げたかのように末広がりに延焼していった。炎から遠い家は煙にむせび、近いところはひたすら炎が地面に吹きつけている。空には灰が吹き上げられ、火の光を反射して夜空一面が真っ赤に染まる中、風の勢いで吹きちぎられた炎が、飛ぶようにして、一、二町を越えて燃え移ってゆく。火事に巻き込まれた人は、生きた心地がしなかつただろう。

問一 ―― 部①「四月」とあるが、月の異名としてもっともふさわしいものを次のア～エの中から選び、記号で答えなさい。

ア 睦月 イ 弥生 ウ 卯月 エ 神無月

問二 ―― 部②「戌の時」とあるが、それは何時頃を指しているか。次のア～エの中からもっともふさわしいものを選び、記号で答えなさい。

ア 午前一時ごろ イ 午前十時ごろ ウ 午後六時ごろ エ 午後八時ごろ

問三 — 部③「一二町を越えつつ移りゆく」とあるが、火が広範囲に燃え広がってしまった理由を十字以上十五字以内で簡潔に説明しなさい。

問四 — 部④『方丈記』について、あとの(1)・(2)に答えなさい。

- (1) この作品のジャンルは筆者自身が見聞きしたことや感じたことを自由に記す形式である。そのジャンルの名称としてもっともふさわしいものを、次のア～エの中から選び、記号で答えなさい。

ア 日記 イ 随筆 ウ 詩集 エ 小説

- (2) この作品の作者としてふさわしいものを、次のア～エの中から選び、記号で答えなさい。

ア 藤原公任 イ 兼好法師 ウ 清少納言 エ 鴨長明

